

環境経営のすすめ

今の事業をいつまで続けられると思いますか

私たち

日本人は一日に一人あたり資源を約34・1kg利用し、廃棄物を約12・5kg出し、温室効果ガスを約29・5kgも排出して生活しています。もし世界中の人々が我々と同じ生活をする事になれば、地球があと2つ程は必要となる計算になります。

この状態の環境を例えることばに、「共有地の悲劇（ハーディン）」というがあります。

共有地

で皆が羊を飼っている場合、各人が飼う数を増やさないと問題は問題なく生活が続けられます。しかし一人が利益をあげるため数を増やし、それが我も我もと広がるとやがては牧草が無くなり、結局



森下 有輝氏
特定非営利活動法人
岐阜環境カウンセラー協議会
理事長

は皆が路頭に迷うことになるというものです。地球環境問題では、共有地は地球であり、羊は資源に、羊を飼う人は世界の国々が当てはまるので、地球の現状は早急な環境・資源対策が必要なのです。

そこで、低炭素社会への行動が世界的に求められ、我が国も二酸化炭素を25%削減するという新政府見解も発表されました。これに従うと経済がますます悪化するという不安意見もありますが、第三の開国とも言われる今だからこそ、立ちはだかる大きな目標にも敢然と立ち向かうことが必要であり、その出来る企業だけが生き残れるのだらうと思います。

中小企業にも

環境配慮が求

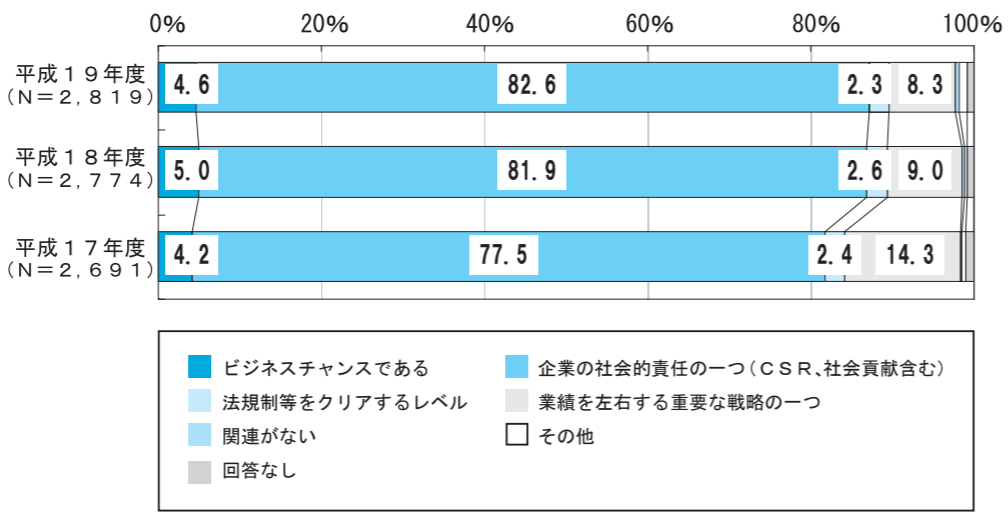
められるようになり、環境経営に取り組む企業も増えているので、ISO14001とかエコアクション21というのが環境経営システムであることをご承知の向きも多いでしょう。環境経営とは「事業者がその経営の中で自主的に環境への取組を実施するために環境に関する方針や目標を自ら設定し、改善していくこと」で、近江商人の心得「三方得（売り手よし・買い手よし・世間よし）」に、環境配慮を加え「四方得」にすることなのです。

日本人には

「もったいない」という

思想が連綿と受け継がれています。物資が満ちあふれて片隅に追いやっていた「もったいない」を経営に取り入れることが環境経営の第一歩であり、環境に配慮した事業活動に取り組む企業を社会はいつまでも暖かく支援するでしょう。

環境への取組と企業活動のあり方



出典：環境省「環境にやさしい企業行動調査 平成19年度結果概要より」

お知らせ

環境と経済セミナー

日時 12月10日(木) 15時~16時半
場所 岐阜商工会議所 4階 議員クラブ室
定員 30名
受講料 無料
講師 岐阜大学地域科学部 地域政策学科 准教授 三井 栄 氏
申込み 岐阜商工会議所 中小企業相談所
TEL 264-2135
FAX 265-6001